



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

2020年度 体験活動プログラム 活動報告



体験型活動ワーキンググループ

2021年3月31日

目次

I	体験活動プログラム実施概要.....	1
II	体験活動プログラム活動報告.....	3
III	体験活動プログラム活動報告会.....	11
IV	付録	
	・ 体験活動プログラム概略.....	15

I 体験活動プログラム実施概要

●概要

学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

平成24年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、平成24年度には176名が活動に参加、さらに平成25年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学部学生を様々な体験の場に送り出しています。

●令和2年度体験活動プログラム実施データ

〈プログラムの件数および募集人数〉

○ 提供プログラム数：17件、活動実施プログラム数：17件、募集人数：141名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	9件（53%）	9件（53%）	59名（42%）
海外プログラム	7件（41%）	7件（41%）	72名（51%）
研究室プログラム	1件（6%）	1件（6%）	10名（7%）
全プログラム	17件（100%）	17件（100%）	141名（100%）

〈出願、参加状況〉

- 全プログラムでの総募集人数141人に対し、出願者数は118名（84%：募集人数比）、出願者のうち、参加者数は117名（99%：出願者数比）。
- 国内プログラムは総募集人数59名に対し、出願者数は47名（80%：募集人数比）、出願者のうち、参加者は47名（100%：出願者数比）。
- 海外プログラムは総募集人数72名に対し、出願者数は62名（86%：募集人数比）、出願者のうち、参加者は61名（98%：出願者数比）。
- 研究室プログラムは総募集人数10名に対し、出願者数は9名（90%：募集人数比）、出願者のうち、参加者は9名（100%：出願者数比）。

区分	総募集人数	出願者数	参加者	不採択
国内プログラム	59名	47名 〈80%〉	47名 《100%》	0名 《0%》
海外プログラム	72名	62名 〈86%〉	61名 《98%》	1名 《2%》
研究室プログラム	10名	9名 〈90%〉	9名 《100%》	0名 《0%》
全プログラム	141名	118名 〈84%〉	117名 《99%》	1名 《1%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は出願者数との比率

なお、プログラムに出願し、不採択となった者が別のプログラムに出願しているため、出願者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、出願者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

〈採択者の属性〉

◆男女別内訳

○ 参加者117名の男女別内訳は、男子学生が60名（51%）、女子学生が57名（49%）。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	60名 (51%)	57名 (49%)	117名 (100%)

◆学年別内訳

○ 参加者117名のうち、学部前期課程学生は64名（55%）、学部後期課程学生は53名（45%）。

○ 参加者117名の学年別内訳は、1年生25名（21%）、2年生39名（33%）、3年生32名（27%）、4年生19名（16%）、5年生2名（2%）、6年生0名（0%）。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	男子	女子
法			2	5			7	4	3
医			5		1		6	3	3
工			9	3			12	9	3
文			1				1	1	
理			2	2			4	2	2
農			1	1	1		3	2	1
経済			2	3			5	3	2
教養	25	39	3	5			72	33	39
教育			3				3	2	1
薬			4				4	1	3
計	25	39	32	19	2	0	117	60	57

教養学部欄の「1年」、「2年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1年	3	7	7	3	1	3	24
（国内）	1	3	3	2	0	2	11
（海外）	2	3	2	0	1	1	9
（研究室）	0	1	2	1	0	0	4
2年	7	5	18	1	8	0	39
（国内）	4	1	8	0	3	0	16
（海外）	3	4	8	1	4	0	20
（研究室）	0	0	2	0	1	0	3
計	10	12	25	4	9	3	63

Ⅱ 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称

ページ数

1	地域包括ケア体験プログラム	4
2	高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域の中高生と『語り場』～	4
3	増やそう地域を愛する人！地域資源情報受信事業協働体験	4
4	再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン	5
5	田舎の集落に眠る「ドラマチック」を探そう！～移民と歴史の村で学ぶ、文化資源と地域おこし～	5
6	課題先進地種子島の未来人財と考える持続可能な地域づくりプログラム！！	5
7	ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」の恵みを感じ、アクティブな生き方を創造する	6
8	Uターンの本音を踏まえた促進策を考える～Uターン希望者のココロに刺さる一矢を企画しませんか？～	6
9	中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト	6

海外プログラム名称

ページ数

1	中国訪問と学生交流	7
2	シンガポールでビジネスを学んでみよう	7
3	英国ロンドン、海外で働くとは	7
4	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動	8
5	アラブ首長国連邦の「いま」	8
6	ハーバード大学医学部研究室の（Virtual）訪問・ディスカッション	8
7	コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション	9

研究室プログラム名称

ページ数

1	みんなで翻刻ソシ	10
---	----------	----

【国内プログラム】

01. 地域包括ケア体験プログラム

柏市における地域包括ケア及びその関連事業（社会福祉協議会、地域子育て関連事業、厚生労働省等）の関係者の方々と意見交換を行い、地域包括ケア事業が、在宅医療だけでなく介護予防や社会参加の促進等様々な分野を扱い、その各分野において非常に多くの職種・立場の方々が連携し活動している、裾野の広いプロジェクトである事を実感した。実際のお仕事の様子やサービスを利用された人の話から、行政施策のメリット・デメリットを知り、定期的な現場の方々の意見の取り入れがいかに大切か再認識した。

日 程：2021/2月中旬-3月、定められた日程

参加学生：4名

活動場所：オンライン

備 考：柏市役所ホームページ <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/060200/p011002.html>
東京大学 高齢社会総合研究機構 <http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>

02. 高校魅力化プロジェクト

～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域の中高生と『語り場』～

全国の公営塾に通う中高生に向け英語と数学の科目を勉強する意味について70分間の授業を作成し、オンラインで参加学生へ発表し意見交換を行った。まず公営塾とZoomをつないで高校生から勉強への向き合い方や将来の展望などについてさまざまな意見を聞いた。情報収集や活動などに関して環境が整っていないのではないか、それによって自己実現が困難なのではないかと考えていたが、予想に反してその地域でできる最大限の物事に全力で取り組み、環境が整っている都心よりも有意義な学校生活を送っている生徒が多くいることがわかった。

日 程：2021/2/24(水)-2/26(金)、3/8(月)-3/11(木)

参加学生：7名

活動場所：オンライン

備 考：株式会社 Prima Pinguino <http://pripin.co.jp/>
高校魅力化プロジェクト <http://miryokuka.com>

03. 増やそう地域を愛する人！地域資源情報受発信事業協働体験

三浦市の人口減少傾向の現状を分析し、その解決の提案を行った。東京により近い地域へと引っ越し人がいる一方、テレワークを機に東京へ頻繁に通う必要がなくなり三浦市へと転入してくる人もいる。マイクロツーリズム、ビーチリゾートに着目し、地域の良さ（三浦でしかできない事）を知ってもらうこと、地域で楽しんでもらうことに重点をおき、新しく三浦の魅力を伝える事が必須であると考え、転出者の減少、転入者の増加策を考察した。アイデアを実現可能かつ持続可能なものとして実装していくことの難しさを再認識した。

日 程：2021/2/21(日)-3/4(木)、定められた日程

参加学生：2名

活動場所：オンライン

備 考：三浦市ホームページ <http://www.city.miura.kanagawa.jp/kyoudo/centeropen.html>
三浦市民交流センター <https://www.miuracc.org/> twitter: @MiuraccNinaite

04. 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン

持続可能な社会の構築に向けて、再生可能エネルギーを用いた事業などを幅広く行っているベンチャー企業でのインターンを通し、ベンチャー企業が他国に参入する際にどう調査・進出していくかの最初の行動を学んだ。アフリカで行われている太陽光発電関連の事業を行う会社と緑地化関連の事業を行う会社をリサーチして、最終的にプロジェクトを進める会社の方たちにプレゼンテーションを行った経験は、将来起業やプロジェクト発足の際に役に立つと感じた。

日 程：2021/2/8(月) - 2/19(金)
参加学生：5名
活動場所：オンライン
備 考：サステナジー株式会社 <http://sustainergy.co.jp/>

05. 田舎の集落に眠る「ドラマチック」を探そう！ ～移民と歴史の村で学ぶ、文化資源と地域おこし～

三重県美浜町三尾にあるカナダミュージアムをバーチャルツアーで見学し、日系カナダ移民の歴史について学んだ。地元のカナダ移民の歴史を語り継ぐ団体「Kataribe Jr.」所属の中学生、三尾のバーチャルフィールドワークを行っている京都外国語大学の学生と幅広い話し合いの機会を持った。カナダ赤門会の方々と交流する機会も持ち、カナダから見た日系カナダ人の歴史についても知識を深め、次年度カナダ赤門会で企画される体験活動プログラムの計画についても聞かせていただいた。

日 程：2020/12/28、2021/2/14、3/4
参加学生：7名
活動場所：オンライン
備 考：NPO法人 日ノ岬・アメリカ村 <http://americamura.wakayama.jp/>

06. 課題先進地種子島の未来人財と考える持続可能な地域づくりプログラム！！

種子島中学校との交流、種子島高校のシンポジウム参加への補助が主な活動。これからの日本の課題が種子島ではすでに現状である、課題先進地といわれる種子島。色々と解決案を考えても、また次の課題が出て完全なる解決策はないが、様々な研究機関が連携し課題に取り組めば、今まで以上に成果が出ることを、体験を通して痛感できた。課題解決先進地域になろうとしている種子島から学べることはたくさんあり、交流を通じてわかった種子島の中高生が種子島について真剣に考える姿に、問題は山積みでも将来は明るいと感じた。

日 程：2021/1月下旬 - 3/6(土)のうち8日間
参加学生：5名
活動場所：オンライン
備 考：種子島観光協会ホームページ <http://tanekan.jp>
西之表市役所ホームページ <http://www.city.nishinoomote.lg.jp>

07. ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」の恵みを感じ、アクティブな生き方を創造する

宍道湖・中海や松江圏域についての事前学習。各学生の自宅に事前に届く網としじみ。実際に漁で使う『網』は触る（時に破く）体験をして資源利用・保全、水産業の現状や宍道湖漁港の取り組みについて学習。『しじみ』はあらかじめ各自味噌汁に調理し、オンライン食事会でその味の感想を述べながら地域振興の取り組みの意見交換。宍道湖・中海の水草の除去作業や環境学習にも触れ、豊かな自然の保全と次世代への引き継ぎ、地域住民に愛着を持ってもらう為の取り組み等、関係者の未来への期待が強く印象に残った。

日 程：2021/2月下旬-3月上旬のうち3日間

参加学生：6名

活動場所：オンライン

備 考：中海・宍道湖・大山圏域市長会事務局 <https://www.nakaumi.jp/>
宍道湖漁業協同組合 <http://shinjiko.jp/>
松江市役所ホームページ <http://www.city.matsue.shimane.jp>

08. Uターンの本音を踏まえた促進策を考える

～Uターン希望者のココロに刺さる一矢を企画しませんか？～

地元の高校生、メンターの方も交えて魚津市の抱える人口減少に対する課題解決に取り組んだ。地元で起業された方や首都圏在住の非Uターン者、地元企業の関係者など、様々な属性の方々にインタビューを行い、地元の良さや課題を探りながら、提案の方向性を決め、プログラム最終日には政策提言発表会を行い、検討を重ねてきた提言をプレゼンテーション形式で発表した。あらゆる立場からの意見を聞くことで、視野を広げることができた。

日 程：2021/1月中旬-3月下旬のうち6日間

参加学生：6名

活動場所：オンライン

備 考：魚津市役所ホームページ <https://www.city.uozu.toyama.jp/>
魚津市定住応援サイト <https://uozu-sumitai.jp/>

09. 中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト

島根県益田市は中世の時代が色濃く残る史跡や古文書などが残る全国でも稀有な地域であるが、中世の歴史が一般にはあまりなじみのないことから、これを十分に活かし切れず観光客増加につながっていない。この現状を改善するため、益田市の方々から中世の街並みの紹介および現在抱えている問題についてお話をうかがい、解決策を見つけ出すための、ディスカッションを行った。直接現地に伺えない分、積極的な質問によって益田市への理解を深めた。

日 程：2021/2/1(月)-2/2(火)

参加学生：5名

活動場所：オンライン

【海外プログラム】

01. 中国訪問と学生交流

中国現地企業、中国で事業展開を行なっている日系企業、日本大使館の方々と質疑応答を交えてオンライン交流し、中国経済に関しての見解を聞き、中国社会に対してより具体的なイメージを持つことができるようになった。中国という国の世界における存在感の増大、そして日中関係の重要性を改めて感じただけでなく、自分自身の今後の学生生活、進路・キャリア設計に関し真剣に考えるきっかけを得た。中国の大学生との交流は、話題は多岐に渡り、文化的な差異も多く見受けられ面白かった。

日 程：2021/3/8(月) - 3/12(金)

参加学生：6名

活動場所：オンライン

備考：東大北京校友会・上海銀杏会 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>

02. シンガポールでビジネスを学んでみよう

様々な業種・職種のシンガポールで活躍されているOB/OGの仕事内容や経歴を調査して質問事項を事前準備し、その方々とミーティングした。民族、宗教等の多様性が国際的ビジネス環境を作る一方で、シンガポールは自国民優先的な側面も合わせ持つ事を知った。キャリア形成についての「自分自身をブランド化させよう」というアドバイスがとても面白いと感じた。他者とは違う自分の持っている経験や技術、パーソナリティなどを中心に自分の価値をマーケティングしていく。新しい発想だったが、同時にとても共感した。

日 程：2021/2/28(日) - 3/6(土)

参加学生：7名

活動場所：オンライン

備考：淡星会 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>

03. 英国ロンドン、海外で働くとは

OxfordやCambridge大学、PwC、赤門学友会、大使館、JR東海、丸紅、MUFG、EBRD、ヨーク大学のご所属の方々と交流した。ご講演の後にQ&Aを行い大変インタラクティブなものだった。お話の内容は、それぞれの大学や企業の普段の活動に関するものだけでなく、各講演者のキャリア形成や価値観にも渡った。海外で留学する、もしくは、働くにあたって、どんな準備をされたか、どんな苦勞をされたか、ご家族とどのような話し合いを行なったかなど、様々なお話を伺うことができた。

日 程：2021/2/22(月) - 2/27(土)

参加学生：17名

活動場所：オンライン

備考：英国赤門学友会 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>

04. サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動

学生同士で自己紹介のプレゼンをし、再生可能エネルギーに移行していく将来を見据え、新たな産業育成に国をあげて取り組んでいる話を聞いた。スマートシティ計画NEOMには驚いた。サウジの学生とのディスカッションをリクエストし、社会問題、家族生活等について質問し合え、パワフルな雰囲気も感じた。学生たちが「国をあげて」未来を作り上げようという意識を持ち、自分の研究を活かすという志向を共有していることが伝わってきて面白かった。海外の仕事につきサウジにも今後関わりたいと思うようになった。

日程：2021/2/28(日) - 3/1(月)

参加学生：4名

活動場所：オンライン

備考：プリンセス・ヌーラ・ビント・アブドゥッラハマーン女子大学

<http://www.pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx>

東京大学総括寄付講座 (GS+I) <http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>

05. アラブ首長国連邦の「いま」

カリファ科学技術大学 (KUST) およびUAE大学 (UAEU) とのオンライン交流を通じて、それぞれの国の文化や自分自身の興味について発表、ディスカッションを行い、政治・宗教・スポーツなど、UAEで学んでいる同年代の学生が何を考えて何を感じているかを知ることができた。また、ドバイにある日系の諸機関で働いている本学のOB/OG等との交流を通じて、日本人がUAEで働くことの意味と意義を実感することができた。

日程：2021/3/11(木)、3/16(火)、3/19(金)

参加学生：4名

活動場所：オンライン

備考：東京大学総括寄付講座 (GS+I) <http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>

カリファ科学技術大学 (KUST) <https://www.ku.ac.ae/>

アラブ首長国連邦大学 (UAEU) <https://uaeu.ac.ae/en/>

06. ハーバード大学医学部研究室の (Virtual) 訪問・ディスカッション

主にハーバード大学医学部からだったが、それ以外からも、大学院生から既に研究室を持たれている教授まで幅広い層の方々に、アメリカに行かれた経緯、アメリカ社会の民族・女性・子育て・働き方などに対する寛容さ、日本とアメリカでの研究や制度・環境の違い、研究者としてキャリアを積むための姿勢・準備、留学だけでなく研究全般についての実情など様々なメッセージ性の強いお話をうかがった。先輩方の経験ベースのお話が、研究留学をより自分ごとにしてくれたと感じた。とても貴重な機会だった。

日程：2021/2/16(火) - 2/22(月)

参加学生：13名

活動場所：オンライン

備考：ハーバード大学医学部 <https://hms.harvard.edu/>

07. コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション

オンライン代替措置のため、アメリカの複数の場所から、コロンビア大学を中心にアメリカで留学・研究・就職・起業等されているさまざまな立場の先輩方から、ジェンダー、教育、海外大学院へ行く価値、国際的な働き方、差別など幅広い話題についてうかがえた。経験した方ならではのアドバイスが多くモチベーションも高まり、学生の質問に対する丁寧な答えはとても励みになった。特定の分野に偏らず視野を広く持ち様々な分野に触れてみる事の重要性、自分が想像している以上に進路の選択肢は多様にある事、に気付いた。

日 程：2021/2/8(月)-2/13(土)

参加学生：10名

活動場所：オンライン

備 考：コロンビア大学 <https://www.columbia.edu/>

【研究室プログラム】

01. みんなで翻刻ソン

Webサイト「みんなで翻刻」を利用し、古文書の翻刻（文字を活字に直し、データとして扱いやすくする作業）を行った。自分の力では判別しにくい字がある場合には、搭載されているAIによるくずし字認識システムも利用しながら翻刻を進めた。また、その前段階として、各自がスマートフォンにくずし字学習支援アプリのKuLAをインストールし、くずし字の解読を学んだ。ソフトを使うにあたり使いづらい箇所やその改善策を参加者同士で提案し合い、その過程をGoogleドキュメントに議事録として保存した。

日 程：2021/2/16(火)、2/24(水)、3/9(火)

参加学生：9名

活動場所：オンライン

備 考：みんなで翻刻 <https://honkoku.org/>

Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

2021年3月19日（金）、オンラインにて、体験活動プログラム報告会を開催した。プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学内外関係者及び本学教職員等約140名が出席した。

学生スタッフ2名の進行で開会した。まず五神真総長より、国際交流体験、文化体験、農林水産業体験や地域体験などの体験を通じて「多様性の尊重」や「自己を相対化する視野」を養う重要性和、学生に様々な活動の機会を与えてくださった受入関係者への謝辞が述べられた。

続いて、津田副学長から、新型コロナウイルスの感染拡大により今年度のプログラムはオンラインでの実施となったが、オンラインならではの効果や可能性について述べられた。



司会担当の学生スタッフ



五神総長の挨拶



津田副学長の挨拶

続いて、5つのプログラム（「コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション」、「田舎の集落に眠る「ドラマチック」を探そう！～移民と歴史の村で学ぶ、文化資源と地域おこし～」、「中国訪問と学生交流」、「みんなで翻刻ソン」、「英国ロンドン、海外で働くとは」）に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

学生の報告終了後、学外機関からは、和歌山県美浜町役場の田中敦之氏からメッセージを頂き、International Longevity Center Global Allianceの大迫政子氏、東大同窓会中国校友会の尤蔚氏、英国赤門学友会の祖開健氏が、学生を受け入れた感想などを話された。



「コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション」



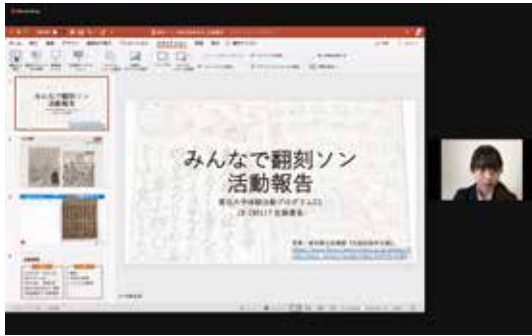
International Longevity Center Global Allianceの大迫政子氏



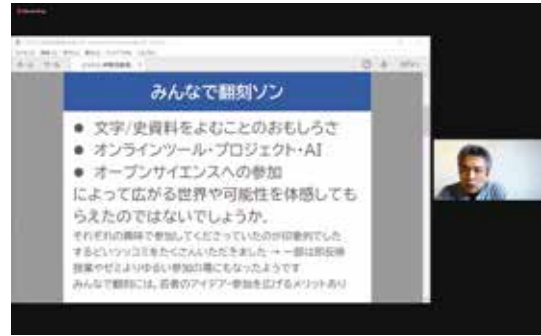
「田舎の集落に眠る「ドラマチック」を探そう！～移民と歴史の村で学ぶ、文化資源と地域おこし～」



「中国訪問と学生交流」



「みんなで翻刻ソン」



地震研究所 加納靖之准教授



「英国ロンドン、海外で働くとは」



英国赤門学友会 相開健氏

最後に体験型活動ワーキンググループ小玉座長より、学内外協力者への感謝の言葉と講評が述べられた。
今年度の報告会を実施するにあたり、6名のプログラム参加学生が当日の司会や運営管理などの役割を担い、報告会の運営に参画したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



小玉座長の挨拶

2020年度 東京大学 体験活動プログラム報告会

本日はご来場ありがとうございました



社会連携部社会連携推進課 体験活動推進チーム

2020年度体験活動プログラム報告会

日時：2021年3月19日（金）

15：00～

場所：Online（Zoom）会議

式 次 第

一．開 会

一．総長挨拶

【五神 真 総長】

一．副学長挨拶

【津田 敦 副学長】

一．活動報告

- ◆コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション
- ◆田舎の集落に眠る「ドラマチック」を探そう！～移民と歴史の村で学ぶ、文化資源と地域おこし～
- ◆中国訪問と学生交流
- ◆みんなで翻刻ソン
- ◆英国ロンドン、海外で働くとは

一．閉 会

《司会》教養学部前期課程文科三類1年 岡 夏希

工学部都市工学科3年 山田 拓実

Hands-on Activities 2020

Debriefing Meeting

Date: (Fri) 19 March 2021, 15:00～

Place: Online (Zoom)

Opening

Message from the President

【Makoto Gonokami, President】

Message from the Vice President

【Atsushi Tsuda, Vice President】

Presentations

- ◆Visiting professors, scholars and students at Columbia University who are UTokyo alumni
- ◆Hunt for ‘Dramatic history!’ Regional revitalization of cultural resources through learning about emigration and history of the village
- ◆Visiting China for cultural and student exchange
- ◆*Minna de honkoku* - Reprint together
- ◆Visiting UTokyo alumni to learn about business and working in London, UK

Close

体験活動プログラム

Hands-on Activities

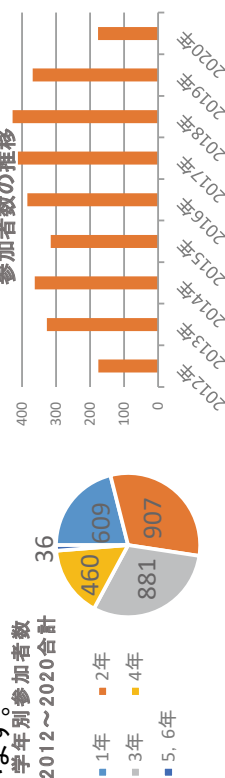


非公認キャラクター
モリかも

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けます。

東京大学独自のプログラムとして平成24年度から国内外問わず実施され、ポランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業・自然体験や地域体験、学内研究室体験など、多様なプログラムで構成されています。



<2020年度・実施プログラム一覧>

国内プログラム (全プログラムより一部抜粋)

- ・地域包括ケア体験プログラム
- ・Uターンの本音を踏まえた促進策を考える
- ・増やそう地域を愛する人！
- ・地域資源情報受策・事業協働体験
- ・再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン
- ・田舎の集落に眠る「ドラマチック」を探そう！
- ・課題先進地種子島の未来人材と考える
- ・持続可能な地域づくりプログラム！！

研究室プログラム

・みんなで翻訳ソノ

海外プログラム

- ・中国訪問と学生交流
- ・シンガポールでビジネスを学んでみよう
- ・英国ロンドン、海外で働くとは
- ・サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動
- ・アラブ首長国連邦の「いま」
- ・ハーバード大学医学部研究室内の(Virtual)訪問・ディスカッション
- ・コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション



参加学生の感想

「地域包括ケア」が高齢者中心に実施されているという実態を見学した。厚生労働省が推進する全世代の地域住民で行う相互ケアは全国の地方自治体で実現されるべきだと強く感じた。(地域包括ケア体験プログラム)

独学で学ぶよりも効率的な崩し字の学習ができただけでなく、技術の進歩や最新の研究状況にも触れることができました。私自身の話では、以前よりも古文書が読めるようになったのがとても嬉しかったです。(みんなで翻訳ソノ)



参加学生が活動について発表する報告会は、参加学生有志が司会やスタッフを務めます。

本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

東京大学本部学生支援課 体験活動推進チーム
taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.htm>



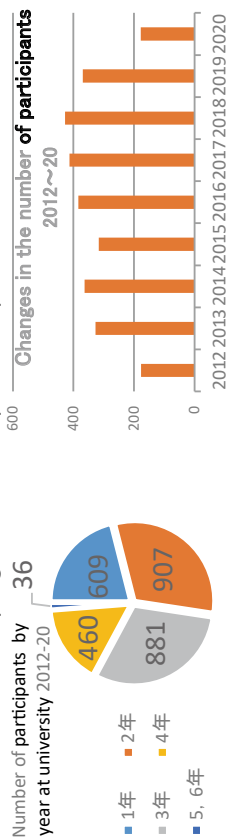


Hands-on Activities

What is "Hands-on Activities"?

The "Hands-on Activities" is a programs that offers UTokyo undergraduate students chances to learn about new cultures and sets of values. Through the activities, students discover new ways of thinking and lifestyles, and acquire the skills to make new ideas by themselves, a requirement to be a "knowledge professionals."

The Hands-on Activities, one of UTokyo's original programs, started in 2012 and takes place in Japan as well as abroad, and consists of a variety of programs such as volunteer work, international experience, agricultural sciences and nature programs, on-campus lab experiences and so on.



Selection of programs from AY2020

Selection of the 9 domestic programs

- Community-based comprehensive care experience program
- Considering promotional measures based on the true intentions of U-turners.
- Let's increase the number of people who love the community! Collaborative experience from local resource information dissemination project
- Internship at a renewable energy venture company
- Let's look for the "dramatics" that lie dormant in rural villages!
- A sustainable community development program with the future human resources of Tanegashima, a place with advanced issues!

Overseas Programs

- Visit to China and student exchange
- Learn about business in Singapore.
- London, England. What it's like to work abroad
- International Exchange Activities at Princess Noora University, Saudi Arabia
- The United Arab Emirates: Now
- (Virtual) Visit to a Harvard Medical School Laboratory and Discussions
- Visiting and discussing with professors, researchers, and students who are graduates of the University of Tokyo affiliated with Columbia University.

Lab-based Programs

Flip-a-thon with everyone



Participants reports

We observed the fact that "comprehensive community care" is being implemented primarily for the elderly. The Ministry of Health Labor and Welfare promotes mutual care which all generations of residents should be involved. I strongly felt that local governments nationwide should implement measure like this. <Comprehensive community care experiment>

In addition to being able to learn broken characters more efficiently than learning by myself, I was also able to touch on the technological advances and the latest research status. For me personally, I was very happy that I became able to read ancient documents better than before. <Reprint>

The debrief sessions where participants make presentations are run by the students themselves.

Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo
taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>





2020年度 体験活動プログラム活動報告

作成	2021年12月
編集	東京大学 社会連携部 社会連携推進課 体験活動推進チーム
住所	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
電話番号	03-5841-2541/2542
URL	https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html